

魅力発揮メイクが対人コミュニケーションに与える効果を検証（第2弾）

初対面の相手とのコミュニケーションがよりポジティブになる可能性を確認

株式会社ポーラ(本社：東京都品川区、社長：横手喜一)は、顔立ちや肌の色を活かし、本人のなりたいイメージに仕上げた「魅力発揮メイク」は、自身のポジティブな感情を喚起し、初対面の相手に会う際に緊張を和らげるだけでなく、対人距離を縮める効果もあることを、表情解析と距離計測により確認しました。

初対面の相手に会う際に身だしなみで気をつけることは、1位に「服装」、2位に「メイク」という結果が出ています*1。さらに、その際どのようなメイクを心がけるか、という質問への回答では1位に「清潔感のある仕上がり」、2位に「失礼にあたらない仕上がり」、3位に「派手になりすぎない仕上がり」のメイクを心がける人が多いこともわかっています*2。

*1・2：2018年ポーラ「メイクに関する意識調査」より N=300 (補足資料参照)

今回の検証では、普段自身で行っているパターン化された「自己流メイク」と、その人の顔立ちや肌の色を活かしながら自身のなりたいイメージに仕上げた「魅力発揮メイク」では、それぞれ初対面の相手に会った際にどのような感情と行動の変化が見られるのかを、①表情解析、②対面する相手と被験者間の距離、の2つを測定することで確認しました。

①表情解析：両メイクとも対面した初期段階（着席フェーズ）では、同程度のネガティブな感情が見られました。しかし、自己紹介フェーズに入ると、「魅力発揮メイク」はポジティブな感情に転じました。一方、「自己流メイク」は自己紹介終了時までネガティブ感情の方が優位なままでした。このことは、「魅力発揮メイク」は初対面の相手への自己紹介時に抱えるネガティブな感情（緊張や恐れなど）を抑制し、また、コミュニケーションが進むにつれて、ポジティブな自己表現を引き出した可能性を示しています。

<図①>表情解析 (Valence分析)



n数：【魅力発揮メイク】=15(着席フェーズのみ14)、【自己流メイク】=15

●Valence = 感情がポジティブかネガティブかを表す指標
 ポジティブな感情を示す“happy”からネガティブな感情を示す“sad”, “angry”, “scared”, “disgusted”のいずれかの最大値を引いて計算。例えば、happyの値が0.8、sadが0.1、angryが0.0、scaredが0.01、disgustedが0.01だった場合、Valenceはhappyの0.8からsadの0.1を引き、0.7となる。0.1秒毎のValenceをもとに各フェーズの平均値を算出。Valenceが0より大きい場合、そのフェーズにおいてポジティブな感情の方が強いことを表す。

②距離計測：メイクの違いによる差が見られました。初対面相手との距離の平均は、「魅力発揮メイク」が約160.4cm、「自己流メイク」が約199.6cmと、「魅力発揮メイク」のほうが40cm程度相手との距離が近いことがわかりました。どちらのグループの平均距離もいわゆる「社会距離」*3ではありますが、魅力発揮メイクの方がより近い距離（＝親密な距離）で初対面の相手とコミュニケーションをとったと言えます。

*3：Edward Hallの「対人距離論」より（ホール,E『かくれた次元』、みすず書房、1970年）

<図②>相手と被験者間の距離



以上の結果から、「魅力発揮メイク」が自身のポジティブな感情を喚起し、初対面の相手との円滑なコミュニケーションに寄与する可能性を見出しました。

【報道関係の問い合わせ先】

株式会社 ポーラ 宣伝部 TEL 03-3494-7119 / FAX 03-3494-6198 〒141-8523 品川区西五反田2-2-3

初対面の人と会う際には、いつもの自己流メイクよりも、自身の顔立ちや肌色に似合うメイク方法やアイテムで仕上げることで、より円滑で親密な対人コミュニケーションを図れる可能性があります。初対面の人と出会う機会が増えるこれからの季節は、改めて自身に似合うメイク方法を実践することで、人間関係に良い影響が出てくることが期待されます。

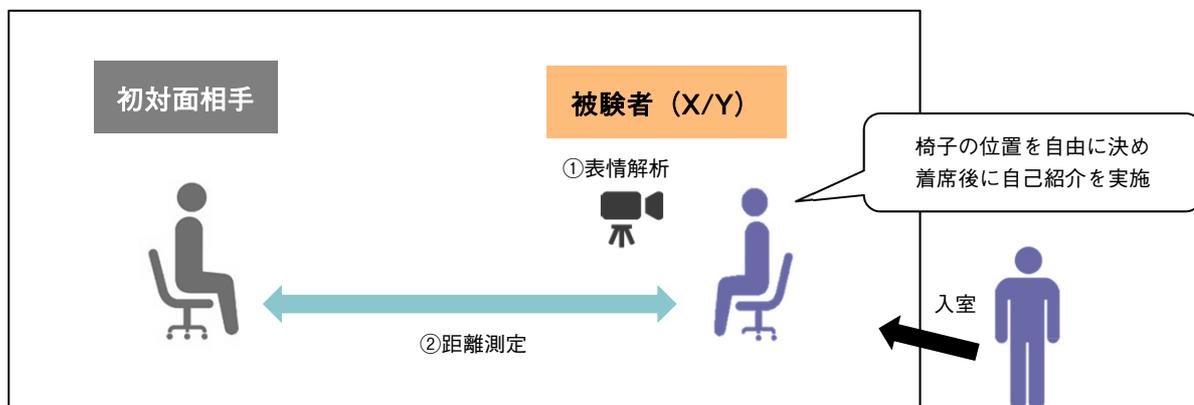
ポーラでは、この調査結果の検証をさらに進めるとともに、この研究の成果を今後のメイクに関するサービスの開発・店頭での提案に活かしていく予定です。

参考) ポーラでは、「魅力発揮メイク」を行なうことで初対面の相手に自身への興味・関心を喚起させ、さらにその相手にポジティブな感情を発生させやすくすることをすでに確認しています。

<https://www.pola.co.jp/company/pressrelease/pdf/2018/po20180116.pdf>

<検証方法>

被験者をX（魅力発揮メイクグループ）と、Y（自己流メイクグループ）に分け、ランダムに1名ずつ初対面の相手に対面し、自己紹介を実施。被験者が相手と対面した際の様子を表情解析技術で解析、さらに、着席する際の椅子の位置は被験者1名ごとに自由に定めてよいものとし、被験者が椅子を置いた位置と相手までの距離を計測した。



<魅力発揮メイク>

その人の顔立ちや肌の色を活かすアイテムやカラーを使用し、本人のなりたいイメージに近づけ魅力を引き出すメイク。特に共通して行うメイクテクニックは①肌の色ムラをカバーする、②血色感を感じるフェイスカラーの使用、③眉は左右対称に描くなど、相手に不安感を与えないもの。今回の検証においてはポーラのメイクアップアーティストがメイクを担当した。

<評価試験実施概要>

期間：2017年11月27日、29日の2日間にわたり実施

評価者8名

- ・性別：女性
- ・年齢：30代4名／40代4名
- ・週に5日以上メイクをしている

評価対象者8名

- ・性別：女性
- ・年齢：30代4名・40代4名
- ・週に5日以上メイクをしている

※評価対象者8名からランダムに抽出した4名に魅力発揮メイクをポーラのメイクアップアーティストが行なう(X)。残りの4名は普段通りのメイクを自身で行った(Y)。

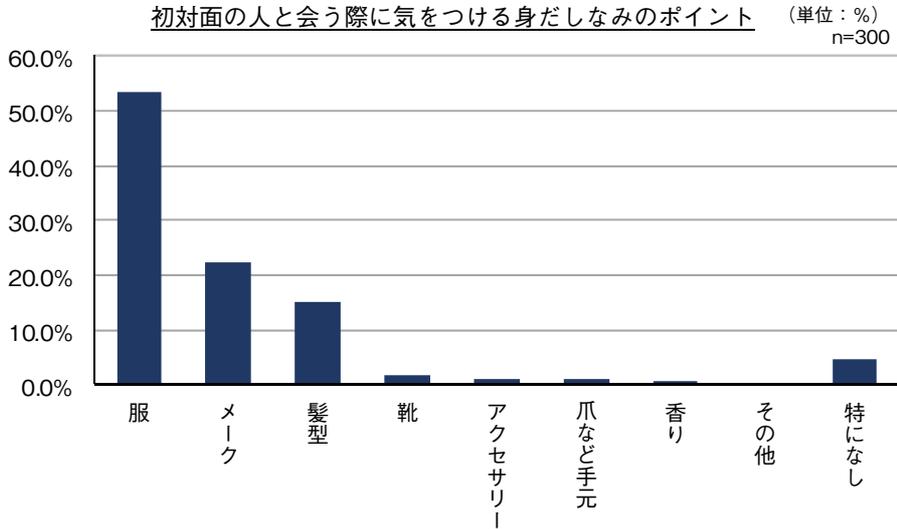
*表情解析とは

顔の筋肉の動きから、その人がどのような感情を抱いているかを分類する学問（FACS理論）がベースになっている評価方法です。

（株式会社インテージの表情解析技術により解析・測定）

2018年ポーラ「メイクに関する意識調査」(N=300 ポーラ調べ)

Q. 初対面の人と会う際に、身だしなみでもっとも気をつけることをお知らせください。(1つ選択)



Q. 初対面の人と会う際に、メイクでどのような仕上がりを心がけますか。(複数選択可)

